

講師紹介

出町柳内科クリニック院長

小山誠次

Seiji Koyama

【演題】

実臨床に役立つ漢方口訣

—臨床経験知としての古典—

Part4

漢方の様々な古典には、先達の漢方処方運用にまつわる口訣がまさに臨床経験知として記されています。本講演では、漢方臨床家として古典研究の第一人者である小山先生が12方剤をとりあげ、改訂『一般用漢方処方の手引き』に示される一般的な適応に対して、それとは別に臨床経験知として古典に記される方剤運用の口訣をとりあげ、その口訣を活かした自験例を紹介し、その方剤の応用を解説してもらいます。古典の口訣と現代の症例をリンクさせる講演の第4弾です。

●学歴・職歴

1976年岡山大学医学部卒業。直ちに第一外科に入局し、研修病院勤務を終了後、日本郵船株式会社船医として勤務。下船後、京都大学医学部第二生理に入局し、生体内物質の分子軌道法による解析を研究テーマとする傍ら、医療法人新河端病院名誉院長・斎藤惇生先生に漢方の手解きを受ける。その後、故山本巖先生の門下に入り漢方を専門的に研究、一方で『黄帝内経素問』および漢文について明治国際医療大学名誉教授・高島文一先生、京都大学名誉教授・山田慶兒先生に薫陶を受

ける。特定医療法人健康会京都南病院他で永年漢方の臨床に従事したのち、現在は出町柳内科クリニックの院長を務める。臨床家としては漢方古典研究の第一人者。

●資格・所属学会

日本東洋医学会指導医・専門医、日本在宅医学会所属。

●著書

『古典に生きるエキス漢方方剤学』『高齢者の漢方治療』(メディカルユーコン刊)、『師語録—曲直瀬道三流医学の概要』『編注日記中揀方』(たにぐち書店刊)などがある。

